

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【田島小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	既習事項の定着に課題がある。本年度同様、毎時間、既習事項を振り返り、その内容を生かして学習することドリルやスタディサプリ等を使って、復習を行いながら、スパイラルに何度も既習事項に触れさせることで、基礎学力の定着を図る。児童が意欲的に学習に取り組むために、教科の特性に合わせた、それぞれの教科を好きになる授業デザインをつくっていく。「分かった、できた、楽しい」授業を展開し、児童が主体的に学びに向かえるようにする。	
思考・判断・表現	どの教科でも、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することや資料と資料を関連付けて読むことに課題がみられる。カリマネデザインマップを意識することに加え、各学年の学習内容の繋がりを確認し、教材研究を行い、教科横断的に既習事項を取り入れた授業展開することで、課題解決していく。また、朝の時間や家庭学習を使って、読書、音読、要点をまとめる学習を重点的に行っていく。今年度同様、1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・や・く」を意識した児童主体の授業を行い、成果と課題を共有することを通じて、特に、必要感のある課題設定や児童の「自分で考える」ことを大切に授業づくりを行う。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「漢字」「語彙」「文や文章」 算数「数と計算」「図形」 <指導上の課題> 既習事項の振り返りに十分に行う時間的余裕がない。児童が定着の不十分な内容を自分で把握できていない。	⇒ 授業中に、既習事項を振り返り、その内容を生かして学習するよう指導する。【毎時間】 書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリの活用やデータ活用を通して、一人ひとりに合った学習ができるように指導する。【週に1度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「読むこと」 算数「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 課題解決のための資料収集や活用が十分指導できていない。	⇒ 1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・や・く」を意識した児童主体の授業を行い、成果と課題を共有する。【毎時間、毎学期】 カリマネデザインマップを意識した授業改善を行う。【毎単元】

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	基本的に、毎時間、授業中に、既習事項を振り返り、その内容を生かして学習を行った。書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリの活用やデータ活用を通して、一人ひとりに合った学習ができるように指導した。学習内容が定着するように、国語では、課題が早く終わった児童から漢字の習熟を高めたい時に、算数では適用問題後や算数タイムで、理科では、学習内容の単元の終わりに、復習プリントや課題克服シート、おかわり(Re)、ドリルパーク、スタディサプリを活用することができた。ルーブリックについては、どの学年も学期に1回以上、活用することができた。
思考・判断・表現	B	全ての教員が授業公開を行い成果と課題を共有した。その際は、1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・や・く」を意識した児童主体の授業を行うことができた。自力で考える時間をとった後に「学びの選択」として、「一人で考える」「友達と相談する」「先生に相談する」をどうするか自分で選択して学びを進める時間を設けることで、自発的に学びを深める姿が見られた。学びの質の向上のため、「カリキュラム・マネジメントデザインマップ」を活用し、他教科との学習内容の繋がりを考え実施した。具体的には、教科間で内容が繋がるものについてどちらかの時数を減らし、その分、習熟の時間にあてることで、より理解を深める時間とすることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、情報と情報の関係付けの仕方、図による語句と語句の関係の表し方を理解することに課題がみられた。算数では、数直線上に示された数を分数で表すことに課題がみられた。分数の意味や表し方の理解が不十分であると考えられる。理科では、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が十分身に付いていないと考えられる。情報を関連付けて読むことや既習事項の定着を目標とする必要がある。	
思考・判断・表現	R7全国学力・学習状況調査の児童質問「自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」に対する肯定的な回答の割合は、高い傾向にあるので、今後も、個別最適な学びを進めていく。	
思考・判断・表現	国語では、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題がみられた。算数では、分数の加法について数や言葉を用いて表すことに課題がみられた。理科では、植物の発芽の条件について、表現することに課題がみられた。情報や知識を基に自分で考え言葉や文章で表現する力が課題となる。	
思考・判断・表現	R7全国学力・学習状況調査の児童質問「インターネットを使って情報を収集することはできるか」に対する肯定的な回答の割合は、県、国と比べて高いが、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか」の割合は、低いので、引き続き「じ・し・や・く」の視点で授業づくりを行っていく必要がある。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	全ての学年・教科において、市平均と比べると「知識・技能」に大きな課題がみられる。国語では、どの学年も「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題がみられる。特に、漢字を文の中で正しく使うことや主語と述語、修飾語、同音異義語の理解の正答率が低い。算数ではどの学年も「数と計算」に課題がみられる。乗法の計算、減法と乗法の混合した計算、基準量・割合・比較量、百分率の求め方、また小数の戻し方について、正答率が低い。社会では、歴史と人々の生活の中で、自分の生活経験と結び付けて考えることができていない。理科では、「理科の言葉」の定着に課題がある。どの教科も基礎基本とされる内容の定着が弱いので、既習事項を意識した学習がより必要である。	
思考・判断・表現	全ての学年・教科において、市平均と比べると「思考・判断・表現」に大きな課題がみられる。国語では、高学年は、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが難しい。算数では、中学年は、グラフを正しく読み取ることができていないが、高学年になると、複合グラフを関連付けて読み取ることの正答率が低い。社会も理科も、資料を関連付けて事象や仕組み、過程を考慮することの正答率が低い。また、どの教科も、問題文が長い問題の正答率が低い傾向にある。問題文が長いことで、最後まで読まずに問題の意図を読み取ることができていない。または、問われている内容を正しく理解できていないことが考えられる。何を問われているのかを理解し、問題に正対することが重要である。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	学校全体として、毎時間、既習事項を振り返り、その内容を生かして学習することができている。知識技能の定着のため、ドリルやスタディサプリ等を使って、練習問題に取り組んでいるが十分な定着には至っていない。引き続きデータの活用を行い、一人ひとりに合った学習を助言する。	発達段階に応じてルーブリック評価を活用し、学習し振り返りをする中で、自分の学びを調整する力を養う。【学期に1回以上】
思考・判断・表現	B	教科の身に付けたい資質・能力を意識して、学びのポイント「じ・し・や・く」の視点をもって、教材研究を行い、授業デザインを行い、実践できていた。児童もこのような学び方に慣れ、興味関心を広げ探究的に学び姿が見られた。2学期以降は、一人一授業公開を行い成果と課題を共有する。	変更なし
思考・判断・表現	B	学びの質の向上のため、「カリキュラム・マネジメントデザインマップ」を活用し、授業デザインを見直し、より効果的なICT活用や教員の「教え方」(関わり方)を研修していく。	